

●買い物難民化している〇〇地区在住の後期高齢者の対応

Q.

食えることと寝ることは、生活する上で欠かせないものだと考えます。特に食物を得ることは、新発田市内の特に本庁地区においてその厳しさを最近増していると感じます。従来からあった商店街の生鮮食品販売店の連続廃業は、まさに買い物難民と言われる本庁地区の後期高齢独居老人の生活の厳しさを表面化しております。一方、郊外の高齢住民は自ら作物を栽培し、自家用車を有し、地域との関係性をもつ中では、上記に比べてそれほど食物を得ることは難しくはないと判断しています。先日、本庁地区内にて忍び難い光景を見てしました。一人が杖をつきながら、もう片方で買い物用の乳母車を引きづっていく後期高齢者、雪が降っていてもどうにもならない状況でした。もう一人が松葉づえを両腕で抱えながら、腰には買い物袋を巻き付けて自宅に戻ろうとする後期高齢者。今の季節は降雪が後期高齢者の行き来を更に邪魔することは言うまでもありません。とは言え、現状の除雪体制は車の流通を第一にしており、後期高齢者にとっては生きにくい状態であることをご存知でしょうか？今回の広報しばたの年頭のあいさつにて「誰でも住みやすいまち新発田市」を掲げていましたが、上記はそれにあたるのでしょうか？余りにも弱者無視の末路と言わざるを得ません。地方には「まちおこし協力隊」なるものが存在するようですが、むしろそれは本庁地区の我が町内会にも必要な人材とも考えますが、本庁地区にはそのような人材は必要ないとお考えなのでしょうか。はっきり言って、台輪を所有する自治会・町内会の形骸化は甚だ激しいと感じています。新発田市議会でも過去に上記スーパーマーケット廃業対応を質問しているケースもありましたが、その後は何も声を大にして訴えていませんし、本庁地区で移動販売車なるものは過去において見たこともありません。反対に上記買い物難民と思われる後期高齢者を見かけることが多くなってきました。いかがお考えなのでしょうか？理想論は誰でも言えます。今の実態を把握し、それに対して即対応解決する姿勢がこの町には必要だと確信しています。

(令和6年1月受付)

A.

人口減少や高齢化が進む地方都市では、中心市街地だけでなく、周辺地域においてもスーパーマーケットや商店が撤退し、高齢者世帯を中心に買い物弱者が増加していることは全国的に社会問題となっており、当市も例外ではありません。

令和元年のスーパーの閉店にあたっては、私も事態を重く受け止め、周辺にお住まいの高齢者等の買い物弱者への支援策として、市と事業者、商工会議所の3者が連携し、買い物でお困りの高齢者等が遠方に出向くことなく、買い物ができるよう移動販売車の運行を開始することとしました。この移動販売車は、令和2年に1台からスタートしましたが、現在は4台が運行し、中心市街地をはじめ約600世帯が利用されております。

また、この移動販売に加えて、日々の買い物にお困りの方なら誰でも利用できる、食品、日用品等の配達サービスを提供している店舗の情報をまとめた「新発田市買い物支援サービス実施店舗一覧」の冊子を作成しており、地域包括支援センター、ケアマネジャー、を通じて買い物支援を必要とする高齢者等に周知しているほか、本庁舎ヨリネスしばた1

階のインフォメーションにも設置しております。

このように、市としても買い物弱者対策に取り組んでおりますが、ご指摘の買い物に苦慮する後期高齢者の姿を目にすることが多いという現状に鑑みれば、当市の買い物弱者に対する支援策の周知はまだ十分ではないと思われまことに、担当課に再度周知の徹底を指示しました。

中心市街地における商店の閉店は大変残念なことでありますが、民間事業者による再開発や新たな販売店舗の進出に向け、行政としてできる限りの支援を行っていくとともに、引き続き移動販売事業の支援や、買い物支援サービス実施店舗の増加を図るほか、ご提案の地域課題の解決に向けた支援を行う地域おこし協力隊の活用についても研究させていただき、今後も買い物弱者対策にしっかりと取り組んでまいります。

(令和6年2月6日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。

●麻しん・風しん混合ワクチン接種の助成

Q.

私の妻は外国籍を有しております。

私の妻が来日し、新発田で暮らし始め、そろそろ子が欲しいなと思った時、心配な事がありました。それは本邦若夫婦カップルは、胎児への先天性風しん症候群の感染の心配なく、産前を暮らせますが、(注釈①)本邦と異国の新発田市民若夫婦カップルは、カップル双方に風しん抗体価が十分有しなれば、妊娠活動したくとも、いつ風しんウイルスの感染に罹患するかも知れないと思うと、麻しん風しん混合ワクチン(注釈②)を接種しなければと考える事でしょう。

ではその費用はと言うと、MR ワクチン接種は、自由診療にて当市では 10 割負担となり、都合、夫婦双方で倍の費用が掛かります。

近隣、胎内市、聖籠町では、MR ワクチン接種何割か助成を受けられますが、新発田では現在 MR ワクチン接種は、全額受益者負担のようです。(注釈③)

本邦で暮らして居られる、異国の方が母国のご家族を本邦に呼び暮らし始め、日本の充実した医療制度を利用し、安心な暮らしをされている異国の方も居られるとの情報もございますが、助成の施策のしかたしだいで、本当に新発田市民、若夫婦カップルの支えとなる子を望む方に、愛の手が差しのべられる公共の福祉を実現する方法もあろうかと存じます。

何卒、市長さまにご賢察いただき、早急に善良なみなさまが、安心してご家族を増やせるよう、MR ワクチン接種の助成を受けられるよう、どうかご尽力賜りたくお願い申し上げます。

注釈①風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染でヒトからヒトへ感染が伝播します。風しんに対する免疫が不十分な妊娠初期(20 週頃)までに風しんウイルスに感染すると、胎児に感染し、赤ちゃんが難聴、白内障、先天性心疾患を特徴とする、先天性風しん症候群を持って生まれてくる可能性が高くなります。妊娠前であれば未接種、未り患の場合、抗体検査を受けて、抗体価が低い場合は、ワクチン接種を積極的に検討すべきです。夫も抗体価が低い場合は、ワクチン接種を検討しましょう。出典：厚生労働省 Web ページより

注釈②MR ワクチン

注釈③新発田地域振興局医療予防課を訪問した時の話

(令和 6 年 2 月受付)

A.

風しんは、強い感染力を有する急性の発疹性感染症で、特に成人で発症した場合には、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化するケースが多いと聞いております。また、ご指摘のとおり、妊娠 20 週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなることから、決して軽視はできない疾患であると考えております。

このようなことから、国では、小児を対象とした二度の定期予防接種に加え、過去に定期予防接種の機会がなかった世代を対象とした追加接種対策を継続実施しております。加

えて、平成25年度からは、県が主体となり、妊娠を望むご夫婦等のうち希望者を対象として、接種費用の一部助成が開始され、当市内においても、これまで延べ571人の方がこの制度を利用して接種を受けてこられました。

こういった取組の成果により、一時拡大も見られた発症者数は県内全域でほぼゼロとなり、一昨年度まで続いた県の助成制度についても、有識者の意見を踏まえた上で「一定の役割を終えた」として廃止が決定された経緯があります。ご家族の、健康なお子様を授かるためにできるだけ手段は取っておきたいとお気持ちはもっともではありますが、こうした現状から、現時点において、市独自で助成を行う予定はありませんので、何卒ご理解をいただきたいと考えております。

ただし、ご指摘のとおり、急激に進行する人口減少の中において、海外から移住される方に寄り添ったグローバルな視点が、今後、ますます重要となってくことは間違いありません。他市町村で独自助成を実施している例があることも踏まえ、当市に定住される方がより安心して暮らし続けられるためにも、引き続きこの分野にしっかり注視していくよう、担当課に指示したところであります。

(令和6年2月26日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。